

外国語学科スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻カリキュラム・マップ(2018年以前入学生)

ディプロマ・ポリシー	国際性・貢献性・宗教性をふまへ、専攻語の確かな運用能力を活用し、固有の社会発展を続けるスペイン語・ブラジルポルトガル語圏地域への文化理解を深め、国際社会での多彩な活躍・様々なコミュニティや国際交流の場での活動に資する人材、グローバルな視野から異文化に取り組める姿勢を擁した人に、学士(スペイン語・ブラジルポルトガル語)を授与します。		①本学の教育理念である「国際性」を身につける。(国際性) ②スペイン語圏及びポルトガル語圏のこぼ文化・コミュニケーション・歴史・習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力がある。(スペイン語圏・ポルトガル語圏の見識) ③スペイン語力及びポルトガル語力を礎に専門性の高い学問を語学・文学・歴史・社会・教育などの領域から自ら選択して探求する。(外国語で学問探求) ④国内外で異文化理解を踏まえたスペイン語・ポルトガル語のコミュニケーションができる。(スペイン語・ポルトガル語コミュニケーション力) ⑤外国語を道具として活躍できる教員や通訳をはじめ、あらゆる分野で外国語力を発揮できる。(仕事で通用する外国語力) ⑥国際的に通用する高度な外国語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献できる。(国内外での貢献性)									
	科目名	授業形態	配当年度	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
スペイン語A(文法)	演習	1	2	スペイン語の運用能力を高めていくために必要な基礎的文法を学ぶ。	「スペイン語A(文法)」に続いて、文法構造の基本を英語と比較しながら、再帰動詞や接続法などより高度な文法事項の学習を中心に進め、それらの用法を修得する。	○	◎			○		
スペイン語A(会話)	演習	1	2	スペイン語の基礎的な文型および会話表現を学習する。	スペイン語の文法および単語・表現を学習しながら簡単な会話をこなせるようになる。簡単な読解・聴解をこなせるようになる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1.1を目指す。	○	○			◎		
スペイン語A(視聴覚)	演習	1	2	スペイン語運用能力の基礎となる基本文法の習熟に対応したコミュニケーション力の練成をはかるとともに、スペイン語圏地域の社会的・文化的特徴を理解し、総合的なスペイン語力の強化を目指す。	複数のDVD教材中心にしなが、日常生活で使用される基本会話の音読練習を反復する。加えて、CD音声教材を駆使した基本表現の聞き取りや筆記によるトレーニングで文章構成力を涵養するとともに語圏文化理解をも進める。	○	◎			○		
スペイン語B(文法)	演習	1	2	1年次に習得した初級文法を確認したうえで、より高度なスペイン語文法修得し、文章読解や聞き取り、作文などの練習問題を通して理解を深める。	「スペイン語B(文法)」に続いて、文法構造の基本を英語と比較しながら、関係詞や命令法、願望文・条件文など、中級レベルの文法事項を修得する。	○	◎			○		
スペイン語B(会話)	演習	1	2	スペイン語の基礎的な文型および会話表現を学習する。	スペイン語の文法および単語・表現を学習しながら簡単な会話をこなせるようになる。簡単な読解・聴解をこなせるようになる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1.2を目指す。	○	○			◎		
スペイン語B(視聴覚)	演習	1	2	スペイン語運用能力の基礎となる基本文法の習熟に対応したコミュニケーション力の練成をはかるとともに、スペイン語圏地域の社会的・文化的特徴を理解し、総合的なスペイン語力の強化を目指す。	複数のDVD教材中心にしなが、日常生活で使用される基本会話の音読練習を反復する。加えて、CD音声教材を駆使した基本表現の聞き取りや筆記によるトレーニングで文章構成力を涵養するとともに語圏文化理解をも進める。	○	◎			○		
スペイン語C(文法)	演習	2	1	既習の文法事項を再確認しつつ、文章読解や聞き取り、作文などの練習問題を通して、中級文法の習得と運用能力のさらなる向上に努める。	特定のテーマについて書かれた解説文を教材に、スペイン語の読解力を養うとともに、スペイン語圏に関するさまざまな知識を習得する。またこれまでに学んだ構文・文法事項を定着させ、語彙や表現力の向上を目指す。	○	◎			○		
スペイン語C(会話)	演習	2	1	1年次に習得したコミュニケーションスキルを定着させる。現実のスペイン語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界の中のスペイン語の事情からスペイン語の世界の情報までを現場の音声映像を通じて習得・理解できるようになる	会話を中心に進め、1年次に学習した文法事項の確認と練習も行う。視聴覚資料を利用してスペイン語圏の歴史や地理に対する理解を深め、スペイン語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2.1を目指す	○	○			◎		
スペイン語C(視聴覚)	演習	2	1	1年次に習得した文法知識、そしてスペイン語圏に関する知識を余すところなく駆使して、スペイン語の長文を聞き取り読みこなす力を身につけていくことを目指す。	授業では主にスペイン語圏の世界遺産に関する文章を読み進めていく。スペイン語の文章を正しく理解するために必要な文法事項を復習するだけでなく、スペイン語圏の国々に関する知識を修得することも併せて行う。	○	◎			○		
スペイン語C(表現)	演習	2	1	専攻スペイン語C(表現)では、スペイン語・日本語両語の特に書き言葉での対照に注目する。両語での名作・名訳の価値を共有できるような関連する映像資料とともに、主要文学作品を中心に翻訳練習等を進める	専攻語学スペイン語1年次での基礎語学力の蓄積を前提に、2年次スペイン語C(表現)においては、日本文学名作である夏目漱石『吾輩は猫である』(1905)の西語訳の検討ならびにスペイン文学の大作『ドン・キホーテ』Quijote (1605・15)の新訳の数々を対照させることで、日本語とスペイン語 両語の特徴ならびに翻訳技術について新たな認識を持ち、言語文化理解に繋げたい。						◎	
スペイン語D(文法)	演習	2	1	既習の文法事項を再確認しつつ、文章読解や聞き取り、作文などの練習問題を通して、中級文法の習得と運用能力のさらなる向上に努める。	特定のテーマについて書かれた解説文を教材に、スペイン語の読解力を養うとともに、スペイン語圏に関するさまざまな知識を習得する。またこれまでに学んだ構文・文法事項を定着させ、語彙や表現力の向上を目指す。	○	◎			○		
スペイン語D(会話)	演習	2	1	1年次に習得したコミュニケーションスキルを定着させる。現実のスペイン語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界の中のスペイン語の事情からスペイン語の世界の情報までを現場の音声映像を通じて習得・理解できるようになる	会話を中心に進め、1年次に学習した文法事項の確認と練習も行う。視聴覚資料を利用してスペイン語圏の歴史や地理に対する理解を深め、スペイン語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2.2を目指す	○	○			◎		

科目名		授業形態	配当年度	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要							
							①	②	③	④	⑤	⑥		
ディプロマ・ポリシー		国際性・貢献性・宗教性をふまえ、専攻語の確かな運用能力を活用し、固有の社会発展を続けるスペイン語・ブラジルポルトガル語圏地域への文化理解を深め、国際社会での多彩な活躍・様々なコミュニティや国際交流の場での活動に資する人材、グローバルな視野から異文化に取り組める姿勢を擁した人に、学士(スペイン語・ブラジルポルトガル語)を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につける。(国際性) ② スペイン語圏及びポルトガル語圏のこぼれ・文化・コミュニケーション・歴史・習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力がある。(スペイン語圏・ポルトガル語圏の見識) ③ スペイン語力及びポルトガル語力を礎に専門性の高い学問を語学・文学・歴史・社会・教育などの領域から自ら選択して探求する。(外国語で学問探求) ④ 国内外で異文化理解を踏まえたスペイン語・ポルトガル語のコミュニケーションができる。(スペイン語・ポルトガル語コミュニケーション力) ⑤ 外国語を道具として活躍できる教員や通訳をはじめ、あらゆる分野で外国語力を発揮できる。(仕事で通用する外国語力) ⑥ 国際的に通用する高度な外国語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献できる。(国内外での貢献性)												
スペイン語D(視聴覚)		演習	2	1	1年次で習得した文法知識、そしてスペイン語圏に関する知識を余すことなく駆使して、スペイン語の長文を聞き取り読みこなす力を身につけていくことを目指す。	「スペイン語C」に引き続き、授業では主にスペイン語圏の世界遺産に関する文章を読み進めていく。スペイン語の文章を正しく理解するために必要な文法事項を復習するだけでなく、スペイン語圏の国々に関する知識を修得することも併せて行う。	○	◎		○				
スペイン語D(表現)		演習	2	1	専攻スペイン語D(表現)では、スペイン語・日本語両語の特に書き言葉での対照に注目する。両語での名作・名訳の価値を共有できるように関連する映像資料とともに、主要文学作品を中心に翻訳練習等を進める	専攻語学スペイン語1年次での基礎語学力の蓄積を前提に、2年次スペイン語D(表現)においては、日本文学名作である夏目漱石『吾輩は猫である』(1905)の西語訳の検討ならびにスペイン文学の大作『ドン・キホーテ』El Quijote (1605・15)の新訳の数々を対照させることで、日本語とスペイン語 両語の特徴ならびに翻訳技術について新たな認識を持ち、言語文化理解に繋げたい。					◎			
スペイン語E(文法)		演習	3	1	これまで習得した中級文法の主要な事項を総合復習(ドリル形式)で概括・再確認(分詞構文/点過去線過去・語法等)し、そのうえでさらに進化した知識を消化しスペイン語運用力を高める。 ABCDまでの総合復習に加え、受講生からのアンケート回答を、を受けて、特定テーマについても検討する。中・上級程度の講義からも文法項目を確認する。	専攻科目スペイン語A,B,C,Dまでで中級文法を学習してきた。本授業科目では、さらに上級文法へと進展する。			◎					
スペイン語E(会話)		演習	3	1	1・2年次で習得したコミュニケーションスキルを定着させる。現実のスペイン語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界の中のスペイン語の事情からスペイン語の世界の情報までを現場の音声映像を通じて習得・理解できるようにする。	会話を中心に進め、1・2年次に学習した文法事項の確認と練習も行う。視覚資料を利用してスペイン語圏の歴史や地理に対する理解を深め、スペイン語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.1を目指す。	○	○		◎				
スペイン語E(視聴覚)		演習	3	1	スペイン語によるニュースや動画を視聴し、ネイティブ話者の話すスピードや内容理解ができるようになる。	ネイティブによるニュースや動画を視聴する。記事の読解も行う。	○	◎		○				
スペイン語E(表現)		演習	3	1	1・2年生で学習した内容を踏まえて、スペイン語で意志を表現できるようになる。	色々な記事や映像を基に、スペイン語の語彙を増やし、表現力を養う。					◎			
スペイン語F(文法)		演習	3	1	この授業ではスペイン語の言語学を概観した後、これまでに学習したスペイン語の要素をいくつか取り上げ、各項目のより深い理解を目指す。	スペイン語の構造を理解する。曖昧だった文法の知識を確かなものにする。			◎					
スペイン語F(会話)		演習	3	1	1・2年次で習得したコミュニケーションスキルを定着させる。現実のスペイン語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界の中のスペイン語の事情からスペイン語の世界の情報までを現場の音声映像を通じて習得・理解できるようにする。	会話を中心に進め、1・2年次に学習した文法事項の確認と練習も行う。視覚資料を利用してスペイン語圏の歴史や地理に対する理解を深め、スペイン語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.2を目指す。	○	○		◎				
スペイン語F(視聴覚)		演習	3	1	スペイン語によるニュースや動画を視聴し、ネイティブ話者の話すスピードや内容理解ができるようになる。	「スペイン語E」に引き続き、ネイティブによるニュースや動画を視聴する。記事の読解も行う。	○	◎		○				
スペイン語F(表現)		演習	3	1	スペイン語文法の簡潔な概説を施した前掲書を底本に語学学習を深化させるとともに、小説・短編・新聞・TOPIC・映像作品・manga等も含め、様々な題材を介して多様なスペイン語表現の習得・活用を進める。	スペイン語ABCDで基本・中級を学習してきた受講生を対象に、『中級スペイン語読み解く文法』を底本として、スペイン語の諸表現の的確な習得を目指す。					◎			
ブラジルポルトガル語A(文法)		演習	1	2	ポルトガル語の文章形態は、同じ西欧言語の英語とは違い、基本的には単調で、例えば疑問詞を伴わない疑問文は肯定文と同じであり、クエスチョンマークを入れれば疑問文になり、動詞の変化を覚えれば時として人称代名詞を省く事も出来るのが特徴でもある。本授業では、ポルトガル語の文法構造を理解してもらい、ポルトガル語に慣れ親しむ事に趣を置く。	この授業では、まず徹底的にポルトガル語特有のアルファベットを覚えてもらい、更に独自の発音記号や句読点がある事を理解してもらい、高校まで学んできた英語とは違う様々なアクセント上の注意点を解説し、それらを自分のものにする方法を教える。	○	◎	○					
ブラジルポルトガル語A(会話)		演習	1	2	ポルトガル語の基礎的な文型および会話表現を学習する。	ポルトガル語の文法および単語・表現を学習しながら簡単な会話をこなせるようになる。簡単な読解・聴解をこなせるようになる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1.1を目指す。	○	○		◎				
ブラジルポルトガル語A(視聴覚)		演習	1	2	独自に開発した映像教材を用いて基礎的な会話表現を学ぶと同時に、ポルトガル語の音声に慣れることによって聞き取る力を養う。映像教材で示されるブラジル独特の身体表現を学ぶことにより、異文化理解とコミュニケーション能力(言語的および非言語的)を身につける。自分自身や家族の事柄、また日常生活に関わる単語と表現を学ぶ。	日常生活に必要な基礎的表現を聞き取り、発話できるようになる。ブラジル独特の身体表現を用いて基礎的なコミュニケーションができるようになる。①、④ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1を目標とする。	○	◎		○				

ディプロマ・ポリシー	国際性・貢献性・宗教性をふまえ、専攻語の確かな運用能力を活用し、固有の社会発展を続けるスペイン語・ブラジルポルトガル語圏地域への文化理解を深め、国際社会での多彩な活躍・様々なコミュニティや国際交流の場での活動に資する人材、グローバルな視野から異文化に取り組める姿勢を擁した人に、学士(スペイン語・ブラジルポルトガル語)を授与します。	① 本学の教育理念である「国際性」を身につける。(国際性) ② スペイン語圏及びポルトガル語圏のことば・文化・コミュニケーション・歴史・習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力がある。(スペイン語圏・ポルトガル語圏の見識) ③ スペイン語力及びポルトガル語力を礎に専門性の高い学問を語学・文学・歴史・社会・教育などの領域から自ら選択して探求する。(外国語で学問探求) ④ 国内外で異文化理解を踏まえたスペイン語・ポルトガル語のコミュニケーションができる。(スペイン語・ポルトガル語コミュニケーション力) ⑤ 外国語を道具として活躍できる教員や通訳をはじめ、あらゆる分野で外国語力を発揮できる。(仕事で通用する外国語力) ⑥ 国際的に通用する高度な外国語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献できる。(国内外での貢献性)											
科目名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要							
ブラジルポルトガル語B(文法)	演習	1	2	ポルトガル語の文章形態は、同じ西欧言語の英語とは違い、基本的には単調で、例えば疑問詞を伴わない疑問文は肯定文と同じであり、クエスチョンマークを入れれば疑問文になり、動詞の変化を覚えれば時として人称代名詞を省く事も出来るのが特徴でもある。本授業では、ポルトガル語の文法構造の中でも名詞の性の違い、定冠詞、主格人称代名詞、英語のbe動詞にあたるser動詞とestar動詞の現在形を学び、それぞれの意味の違いを理解する。	この授業では、文法Aで学んだポルトガル語から更に枠を広げ、2年次で学ぶ講読の授業での長文読解の基礎としての文法を身につけてもらう。	○	◎	○	○				
ブラジルポルトガル語B(会話)	演習	1	2	ポルトガル語の基礎的な文法および会話表現を学習する。	ポルトガル語の文法および単語・表現を学習しながら簡単な会話をこなせるようになる。簡単な読解・聴解をこなせるようになる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1.2を目指す。	○	○			◎			
ブラジルポルトガル語B(視聴覚)	演習	1	2	独自に開発した映像教材を用いて基礎的な会話表現を学ぶと同時に、ポルトガル語の音声に慣れることにより聞き取る力を養う。映像教材で示されるブラジル独特の身体表現を学ぶことにより、異文化理解とコミュニケーション能力(言語的および非言語的)を身につける。自分自身や家族の事柄、また日常生活に関わる単語と表現を学ぶ。	日常会話に必要な基礎的表現を聞き取り、発話できるようになる。ブラジル独特の身体表現を用いて基礎的なコミュニケーションができるようになる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1を目標とする。	○	◎		○				
ブラジルポルトガル語C(文法)	演習	2	1	ブラジルポルトガル語の中級文法の修得。	ブラジルポルトガル語A・B(文法)で得た知識を確実に定着させるとともに、直説法の複合時制、受動態、および接続法現在、接続法半過去をはじめとする高度な文法事項の修得を目指す。		◎	○	○				
ブラジルポルトガル語C(会話)	演習	2	1	1年次で習得したコミュニケーションスキルを定着させる。現実のポルトガル語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界の中のポルトガル語の事情からポルトガル語の世界の情報までを現場の音声映像を通じて習得・理解できるようになる。	会話を中心に進め、1年次に学習した文法事項の確認と練習も行う。視聴覚資料を利用してポルトガル語圏の歴史や地理に対する理解を深め、ポルトガル語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2.1を目指す	○	○		◎				
ブラジルポルトガル語C(視聴覚)	演習	2	1	ポルトガル語視聴覚ABで学んだ表現法を基礎に、本授業ではテレビやラジオのニュース、インタビュー番組、討論会などの視聴を重ね、更にはブラジルの映画などの視聴を通して受講者がお互いの理解を交換し合える状況を提供する。また受講者が話題を交換できるまでのコミュニケーション能力を身につけるためには学習者が普段の生活で比較的理解を示している話題を提供する必要がある。	ブラジルのポルトガル語についての基本的な音の体系を理解し、正確な音の習得および聞き取りを目指す。時事ニュース、映画などに用いられる頻出語彙やその用法について知る。	○	◎		○				
ブラジルポルトガル語C(講読)	演習	2	1	ブラジルと日本の、社会、歴史、食文化にかんするテキストを読み、それらの領域に関連した語彙や表現を学び文章の読解能力を高めるとともに、それらの側面についてポルトガル語で作文ができるようになることを目指す。具体的な事柄を示す叙述のみならず抽象的な概念が記されたテキストを理解する能力を高める。	身近な話題に限定されることなく、ポルトガル語学習を通じてより専門性の高い学問領域に目を向けることができるようになる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2を目標とする。	○	○	◎					
ブラジルポルトガル語D(文法)	演習	2	1	ブラジルポルトガル語の中級文法の修得。	ブラジルポルトガル語A・B・C(文法)で得た知識を確実に定着させるとともに、接続法未来、接続法複合時制、人称不定詞、語法といった高度な文法事項の修得を目指す。		◎	○	○				
ブラジルポルトガル語D(会話)	演習	2	1	1年次で習得したコミュニケーションスキルを定着させる。現実のポルトガル語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界の中のポルトガル語の事情からポルトガル語の世界の情報までを現場の音声映像を通じて習得・理解できるようになる	会話を中心に進め、1年次に学習した文法事項の確認と練習も行う。視聴覚資料を利用してポルトガル語圏の歴史や地理に対する理解を深め、ポルトガル語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2.2を目指す	○	○		◎				
ブラジルポルトガル語D(視聴覚)	演習	2	1	本授業でもテレビやラジオのニュース、インタビュー番組、討論会などの視聴を重ね、更にはブラジルの映画などの視聴を通して受講者がお互いの理解を交換し合える状況を提供する。また受講者が話題を交換できるまでのコミュニケーション能力を身につけるためには学習者が普段の生活で比較的理解を示している話題を提供する必要がある。更には、日本語での目上に対する丁寧語や敬語の表現をポルトガル語での表現に置き換える技能法も指導する。	ブラジルのポルトガル語についての基本的な音の体系を理解し、正確な音の習得および聞き取りを目指す。時事ニュース、映画などに用いられる頻出語彙やその用法について知る。	○	◎		○				

ディプロマ・ポリシー		① 本学の教育理念である「国際性」を身につける。(国際性) ② スペイン語圏及びポルトガル語圏のこぼ・文化・コミュニケーション・歴史・習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力がある。(スペイン語圏・ポルトガル語圏の見識) ③ スペイン語力及びポルトガル語力を礎に専門性の高い学問を語学・文学・歴史・社会・教育などの領域から自ら選択して探求する。(外国語で学問探求) ④ 国内外で異文化理解を踏まえたスペイン語・ポルトガル語のコミュニケーションができる。(スペイン語・ポルトガル語コミュニケーション力) ⑤ 外国語を道具として活躍できる教員や通訳をはじめ、あらゆる分野で外国語力を発揮できる。(仕事で通用する外国語力) ⑥ 国際的に通用する高度な外国語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献できる。(国内外での貢献性)									
科目名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号					
						①	②	③	④	⑤	⑥
ブラジルポルトガル語D(講読)	演習	2	1	ブラジルと日本の、社会、歴史、食文化にかんするテキストを読み、それらの領域に関連した語彙や表現を学び文章の読解能力を高めるとともに、それらの側面についてポルトガル語で作文ができるようになることを目指す。具体的な事柄を示す叙述のみならず抽象的な概念が記されたテキストを理解する能力を高める。	身近な話題に限定されることなく、ポルトガル語学習を通じてより専門性の高い学問領域に目を向けることができるようになる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2を目標とする。	○	○	◎			
ブラジルポルトガル語E(文法)	演習	3	1	ブラジルポルトガル語の上級文法・総合力の修得。	授業前半では、これまで2年間で修得したブラジルポルトガル語の文法知識の定着を図るとともに、ヨーロッパポルトガル語の文法知識を身につける。授業後半では、長文読解を通して、文法力、読解力、語彙力といった総合的なポルトガル語の能力を養う。			◎	○		
ブラジルポルトガル語E(会話)	演習	3	1	1・2年次で習得したコミュニケーションスキルを定着させる。現実のポルトガル語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界の中のポルトガル語の事情からポルトガル語の世界の情報までを現場の音声映像を通じて習得・理解できるようになる。	会話を中心に進め、1・2年次に学習した文法事項の確認と練習も行う。視聴覚資料を利用してポルトガル語圏の歴史や地理に対する理解を深め、ポルトガル語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.1を目指す。	○	○		◎		
ブラジルポルトガル語E(視聴覚)	演習	3	1	本授業でも徐々にレベルアップを図りつつ、テレビやラジオのニュース、インタビュー番組、討論会などの視聴を重ね、更にはブラジルの映画などの視聴を通して受講者がお互いの理解を交換し合える状況を提供する。更にはブラジル人留学生との交流を行い、シナリオを作成し、学習者自らナレーションや設定された役割を演じ、ネイティブの指導も交え、イントネーションや表現を学ぶ。	ブラジルのニュースや新聞などメディアで用いられているポルトガル語の講読を通じて、さまざまな表現、実用的運用能力を身につける。またその文化的背景への理解も深める。	○	◎		○		
ブラジルポルトガル語E(講読)	演習	3	1	ポルトガル語Eの講読では、3年次秋期から留学を希望する受講者が留学先で対応しなければならない文献の講読方法を身につける。本授業ではブラジル独自の表現法・文などの解説、文法上の留意点の説明も必要視されるが、何よりも日本語に置き換える場合の適切な専門用語の文脈の解説も必要となる。特に専門用語の解説に重点を絞り、全体の文脈の中で適切な日本語訳が作成できるように指導する。	2年間に習得したポルトガル語の基礎的な知識を活用し、更に進んだ読解力とブラジルに関する知識の枠を広げる。			◎	○	○	
ブラジルポルトガル語F(文法)	演習	3	1	ブラジルポルトガル語の上級文法・総合力の修得。	授業前半では、これまで2年間で修得したブラジルポルトガル語の文法知識の定着を図るとともに、ヨーロッパポルトガル語の文法知識を身につける。授業後半では、長文読解を通して、文法力、読解力、語彙力といった総合的なポルトガル語の能力を養う。			◎	○	○	
ブラジルポルトガル語F(会話)	演習	3	1	1・2年次で習得したコミュニケーションスキルを定着させる。現実のポルトガル語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界の中のポルトガル語の事情からポルトガル語の世界の情報までを現場の音声映像を通じて習得・理解できるようになる。	会話を中心に進め、1・2年次に学習した文法事項の確認と練習も行う。視聴覚資料を利用してポルトガル語圏の歴史や地理に対する理解を深め、ポルトガル語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.2を目指す。	○	○		◎		
ブラジルポルトガル語F(視聴覚)	演習	3	1	本科目ではポルトガル語学習上級者レベルの授業を行う。授業では、学習者が文化実習(必修)や短期留学などで興味を得た現地での情報を基にネイティブの留学生を交え、音楽やスポーツ、文学や芸術更には各種学問文域などの分野の紹介を行い意見交換・交流を行う。よって学習者主導型の授業を行うので授業担当者は適時間接的な指導を行う。	ブラジルのニュースや新聞などメディアで用いられているポルトガル語の講読を通じて、さまざまな表現、実用的運用能力を身につける。またその文化的背景への理解も深める。			◎		○	
ブラジルポルトガル語F(講読)	演習	3	1	本科目ではポルトガル語講読上級レベルの授業を行う。学習者はそれぞれの卒業論文(研究)のテーマに添ったポルトガル語資料を準備し、解説を行い、指導者は適切なアドバイスを施す。授業の流れによっては適時発表を行う事も可能である。また大学院などへの進学を希望する学生、将来的にポルトガル語圏への就職を希望する学生の事もふまえ、ポルトガル語講読学習の上では、総合的な視野を持って授業をすすめる必要がある。	前半期に習得したポルトガル語の基礎的な知識を活用し、更に進んだ読解力とブラジルに関する知識の枠を広げる。出来ればヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.2に到達したい。				◎	○	○
実践スペイン語1	演習	2・3・4	1	文法・対話・作文演習を通し、既習文法や語彙の定着をはかり、実践的に活きた表現力を補強する。自分の意見や感想等を表現できるよう練習を重ねる。	既に習得した内容を強化し、総合的なスペイン語運用能力を高めることを目指す。				○	◎	○

ディプロマ・ポリシー	国際性・貢献性・宗教性をふまえ、専攻語の確かな運用能力を活用し、固有の社会発展を続けるスペイン語・ポルトガル語圏地域への文化理解を深め、国際社会での多様な活躍・様々なコミュニティや国際交流の場での活動に資する人材、グローバルな視野から異文化に取り組める姿勢を擁した人に、学士(スペイン語・ポルトガル語)を授与します。	① 本学の教育理念である「国際性」を身につける。(国際性) ② スペイン語圏及びポルトガル語圏のこぼ・文化・コミュニケーション・歴史・習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力がある。(スペイン語圏・ポルトガル語圏の見識) ③ スペイン語力及びポルトガル語力を礎に専門性の高い学問を語学・文学・歴史・社会・教育などの領域から自ら選択して探求する。(外国語で学問探求) ④ 国内外で異文化理解を踏まえたスペイン語・ポルトガル語のコミュニケーションができる。(スペイン語・ポルトガル語コミュニケーション力) ⑤ 外国語を道具として活躍できる教員や通訳をはじめ、あらゆる分野で外国語力を発揮できる。(仕事で通用する外国語力) ⑥ 国際的に通用する高度な外国語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献できる。(国内外での貢献性)									
科目名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
実践スペイン語2	演習	2・3・4	1	文法・対話・作文演習を通し、既習文法や語彙の定着をはかり、実践的で活きた表現力を補強する。自分の意見や感想等を表現できるよう練習を重ねる。	既に習得した内容を強化し、総合的なスペイン語運用能力を高めることを目指す。	○	○	○	○	○	○
伝道スペイン語1	演習	2・3・4	1	天理教教理を体系的に理解したうえで、スペイン語話者に対して教理を正しく伝えるための知識と語学力を習得する。	スペイン語に翻訳された天理教紹介パンフレットや教義書をテキストに用いて、基本的な教語や表現を学ぶ。また、スペイン語圏における宗教文化の特質や天理教伝道の歴史や現状についても学習し、さまざまな問題を考察する力を養う。	○	○	○	○	◎	○
伝道スペイン語2	演習	2・3・4	1	天理教教理を体系的に理解したうえで、スペイン語話者に対して教理を正しく伝えるための知識と語学力を習得する。	スペイン語に翻訳された天理教紹介パンフレットや教義書をテキストに用いて、基本的な教語や表現を学ぶ。また、スペイン語圏における宗教文化の特質や天理教伝道の歴史や現状についても学習し、さまざまな問題を考察する力を養う。	○	○	○	○	◎	○
翻訳・通訳スペイン語1	演習	3・4	1	翻訳・通訳とは、単なる言葉の置き換え作業ではなく、文法や語彙・表現力、リスニング能力、関連知識などが求められる総合的で創造的なコミュニケーション能力である。こうした点を認識した上で、これまで習得したスペイン語の知識を土台に、翻訳や逐次通訳の実践練習を重ねる。	翻訳・通訳についての基礎知識を学んだあと、さまざまなジャンルの翻訳演習を通して、語彙力や表現力の向上につとめる。また実際に日常生活で遭遇する通訳の場面を想定して、西日・日西両方向の通訳練習をおこない、翻訳や逐次通訳の基本技術を修得する。	○	○	○	◎	○	○
翻訳・通訳スペイン語2	演習	3・4	1	翻訳・通訳とは、単なる言葉の置き換え作業ではなく、文法や語彙・表現力、リスニング能力、関連知識などが求められる総合的で創造的なコミュニケーション能力である。こうした点を認識した上で、これまで習得したスペイン語の知識を土台に、翻訳や逐次通訳の実践練習を重ねる。	翻訳・通訳についての基礎知識を学んだあと、さまざまなジャンルの翻訳演習を通して、語彙力や表現力の向上につとめる。また実際に日常生活で遭遇する通訳の場面を想定して、西日・日西両方向の通訳練習をおこない、翻訳や逐次通訳の基本技術を修得する。	○	○	○	◎	○	○
スペイン語応用会話1	演習	3・4	1	今まで習得したコミュニケーションスキルを定着させる。現実のスペイン語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界の中のスペイン語の事情からスペイン語の世界の情報までを現場の音声映像を通じて習得・理解できるようになる。	会話を中心に進め、今まで学習した文法事項の確認と練習も行う。視聴覚資料を利用してスペイン語圏の歴史や地理に対する理解を深め、スペイン語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2を目指す。	○	○	○	◎	○	○
スペイン語応用会話2	演習	3・4	1	今まで習得したコミュニケーションスキルを定着させる。現実のスペイン語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界の中のスペイン語の事情からスペイン語の世界の情報までを現場の音声映像を通じて習得・理解できるようになる。	会話を中心に進め、今まで学習した文法事項の確認と練習も行う。視聴覚資料を利用してスペイン語圏の歴史や地理に対する理解を深め、スペイン語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2を目指す。	○	○	○	◎	○	○
総合スペイン語1	演習	3・4	1	いくつかのジャンルの会話文や読み物を通して、スペイン語の語学力を総合的に強化する。初級で学んだ動詞のなかでもhacer, poner, quedarをはじめとする多義語が、日常表現において様々な表現を可能にすることを知る。	リスニングの能力を養う。シャドーイングを根気よく続けることで、ナチュラルスピードでのスペイン語に慣れる。同時に様々な日常表現を習得する。	○	○	○	◎	○	○
総合スペイン語2	演習	3・4	1	いくつかのジャンルの会話文や読み物を通して、スペイン語の語学力を総合的に強化する。初級で学んだ動詞のなかでもhacer, poner, quedarをはじめとする多義語が、日常表現において様々な表現を可能にすることを知る。	リスニングの能力を養う。シャドーイングを根気よく続けることで、ナチュラルスピードでのスペイン語に慣れる。同時に様々な日常表現を習得する。	○	○	○	◎	○	○
実践ポルトガル語1	演習	2・3・4	1	本授業では、主にブラジルにおける様々な現場で必要視される文章の書き方の解説を行う。西欧では、特にキリスト教圏の国々ではクリスマスカードをはじめ友人や知人への手紙、更には目上の人々に対する手紙、場合によっては公文書の作成など、相手によって表現方が変化する文章の作成が必要な場合がある。そこには一定のルールや書式が存在し、それを踏まえないければ相手に失礼な状況が生まれる。ポルトガル語の文章作成技能の初歩から始める。	これまで習得した基礎をさらに強化して、総合的なポルトガル語運用能力を高めることを目指す。	○	○	○	◎	○	○
実践ポルトガル語2	演習	2・3・4	1	本授業では、主にブラジルにおける様々な現場で必要視される文章の書き方の解説を行う。西欧では、特にキリスト教圏の国々ではクリスマスカードをはじめ友人や知人への手紙、更には目上の人々に対する手紙、場合によっては公文書の作成など、相手によって表現方が変化する文章の作成が必要な場合がある。そこには一定のルールや書式が存在し、それを踏まえないければ相手に失礼な状況が生まれる。ポルトガル語の文章作成技能の初歩から始める。	これまで習得した基礎をさらに強化して、総合的なポルトガル語運用能力を高めることを目指す。	○	○	○	◎	○	○

ディプロマ・ポリシー	国際性・貢献性・宗教性をふまえ、専攻語の確かな運用能力を活用し、固有の社会発展を続けるスペイン語・ブラジルポルトガル語圏地域への文化理解を深め、国際社会での多彩な活躍・様々なコミュニティや国際交流の場での活動に資する人材、グローバルな視野から異文化に取り組める姿勢を擁した人に、学士(スペイン語・ブラジルポルトガル語)を授与します。	① 本学の教育理念である「国際性」を身につける。(国際性) ② スペイン語圏及びポルトガル語圏のこぼ・文化・コミュニケーション・歴史・習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力がある。(スペイン語圏・ポルトガル語圏の見識) ③ スペイン語力及びポルトガル語力を礎に専門性の高い学問を語学・文学・歴史・社会・教育などの領域から自ら選択して探求する。(外国語で学問探求) ④ 国内外で異文化理解を踏まえたスペイン語・ポルトガル語のコミュニケーションができる。(スペイン語・ポルトガル語コミュニケーション力) ⑤ 外国語を道具として活躍できる教員や通訳をはじめ、あらゆる分野で外国語力を発揮できる。(仕事で通用する外国語力) ⑥ 国際的に通用する高度な外国語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献できる。(国内外での貢献性)											
科目名	授業形態	配当年度	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要							
伝道ブラジルポルトガル語1	演習	2・3・4	1	天理教教義を体系的にまとめること並びに教義テーマを絞った(お道の言葉やその解説など)上で、実際に翻訳作業を体験してみることを通じて教義理解を深める。併せて、ブラジルなどのポルトガル語圏での布教伝道の歴史及び現況についても学ぶ。	天理教教義を体系的に理解し、ブラジルポルトガル語を使って教義の角目を伝達できるようになることを目指す。	○				○		◎	
伝道ブラジルポルトガル語2	演習	2・3・4	1	天理教教義を体系的にまとめること並びに教義テーマを絞った(お道の言葉やその解説など)上で、実際に翻訳作業を体験してみることを通じて教義理解を深める。併せて、ブラジルなどのポルトガル語圏での布教伝道の歴史及び現況についても学ぶ。	天理教教義を体系的に理解し、ブラジルポルトガル語を使って教義の角目を伝達できるようになることを目指す。	○				○		◎	
翻訳・通訳ブラジルポルトガル語1	演習	3・4	1	翻訳・通訳の理論を学び、実践トレーニングを行なう。	日本語からポルトガル語、ポルトガル語から日本語の双方での通訳・翻訳を対象とし、多様な実践的教材を使用し、通訳・翻訳のトレーニングを進める。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2.2を目指す。	○				◎	○		
翻訳・通訳ブラジルポルトガル語2	演習	3・4	1	ポルトガル語から日本語、日本語からポルトガル語への翻訳及び通訳は、ただ単なるそれぞれの言語間の言葉の意味の置き換えではなく、異なる文化的背景を理解した上での意味の伝達でなければならない。そのために本授業では、様々な専門文域のシミュレーションを想定し、専門的語彙の領域を伸ばす学習が行われる。それぞれの文章やセンテンスをよく吟味し、時にはまったく異なる表現で意味を伝達する方法や技術を学ばせる。本学の国際学会やシンポジウム、更には天理教会本部での各種部署で行われる同時通訳の様子から通訳の技術を学ぶ。	翻訳・通訳の理論を学び、実践トレーニングを行なう。つまり他者間の意思の疎通を仲介する方法を実践的に学ぶ。	○				◎	○		
ブラジルポルトガル語応用会話1	演習	3・4	1	今まで習得したコミュニケーションスキルを定着させる。現実のポルトガル語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界の中のポルトガル語の事情からポルトガル語の世界の情報までを現場の音声映像を通じて習得・理解できるようにする。	会話を中心に進め、今まで学習した文法事項の確認と練習も行う。視聴覚資料を利用してポルトガル語圏の歴史や地理に対する理解を深め、ポルトガル語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2を目指す。	○				○	◎		
ブラジルポルトガル語応用会話2	演習	3・4	1	今まで習得したコミュニケーションスキルを定着させる。現実のポルトガル語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界の中のポルトガル語の事情からポルトガル語の世界の情報までを現場の音声映像を通じて習得・理解できるようにする。	会話を中心に進め、今まで学習した文法事項の確認と練習も行う。視聴覚資料を利用してポルトガル語圏の歴史や地理に対する理解を深め、ポルトガル語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。最終的にヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2を目指す。	○				○	◎		
総合ブラジルポルトガル語1	演習	3・4	1	ブラジルとポルトガルの映像資料を用いて具体的事象にかんする話題の聞き取り能力を高めるのみならず、感情や希望といったより抽象度の高い表現を身につける。	ラジオやテレビ番組で報道される時事問題、歴史、地理、あるいは個人的な話題についての説明の要点が理解できるようになる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1を目標とする。			○	○	◎			
総合ブラジルポルトガル語2	演習	3・4	1	ブラジルとポルトガルの映像資料を用いて具体的事象にかんする話題の聞き取り能力を高めるのみならず、感情や希望といったより抽象度の高い表現を身につける。	ラジオやテレビ番組で報道される時事問題、歴史、地理、あるいは個人的な話題についての説明の要点が理解できるようになる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1を目標とする。			○	○	◎			
イペロアムリカ語学概論1	講義	2・3・4	2	スペイン語を共時的、通時的に学び、系統と成り立ちについて基本的な知識を身につける。スペイン国内で話されている様々な言語、世界でスペイン語を母国語とする国々のことばについて概観する。	スペイン語史を通じて、スペイン語の音韻面、形態面、統語・意味面、語彙などの移り変わりを学ぶ。スペインの各地域のこぼ、ラテンアメリカのスペイン語について、音声的、統語的、意味的、形態的に考察する。アメリカ合衆国におけるスペイン語の重要性を政治的、経済的側面から考察する。			◎		○	○		
イペロアムリカ語学概論2	講義	2・3・4	2	ポルトガル語の系統とその成立について知る。またポルトガル語圏のうち、ブラジルのポルトガル語、ヨーロッパのポルトガル語を中心に、その言語的特徴、方言や社会的なヴァリエーションなどポルトガル語の多様性を理解する。	ポルトガル語の系統およびその成立と、ポルトガル語の二大ヴァリエーションであるヨーロッパのポルトガル語およびブラジルのポルトガル語の特徴を音声的、統語的、意味的側面から概観する。また、社会的なヴァリエーションなどポルトガル語圏の言語に関する状況も幅広く概観する。			◎		○	○		
イペロアムリカ文学概論1	講義	2・3・4	2	スペイン語圏言語文化の本質を表象するスペインおよびラテンアメリカ地域の主要文学作品を紹介するとともに、文学作品解釈を通して、同語圏社会の理解に繋げたい。	スペイン語圏言語文化の本質を表象するスペインおよびラテンアメリカ地域の代表的な文学作品『エル・シンド』や『ドン・キホーテ』からロルカやマルケス、カルロス・フエンテスまでおよび関連の映画作品を紹介するとともに、テキスト解釈にも言及する。	○	○	◎					

ディプロマ・ポリシー	国際性・貢献性・宗教性をふまえ、専攻語の確かな運用能力を活用し、固有の社会発展を続けるスペイン語・ブラジルポルトガル語圏地域への文化理解を深め、国際社会での多彩な活躍・様々なコミュニティや国際交流の場での活動に資する人材、グローバルな視野から異文化に取り組める姿勢を擁した人に、学士(スペイン語・ブラジルポルトガル語)を授与します。	① 本学の教育理念である「国際性」を身につける。(国際性) ② スペイン語圏及びポルトガル語圏のことば・文化・コミュニケーション・歴史・習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力がある。(スペイン語圏・ポルトガル語圏の見識) ③ スペイン語力及びポルトガル語力を礎に専門性の高い学問を語学・文学・歴史・社会・教育などの領域から自ら選択して探求する。(外国語で学問探求) ④ 国内外で異文化理解を踏まえたスペイン語・ポルトガル語のコミュニケーションができる。(スペイン語・ポルトガル語コミュニケーション力) ⑤ 外国語を道具として活躍できる教員や通訳をはじめ、あらゆる分野で外国語力を発揮できる。(仕事で通用する外国語力) ⑥ 国際的に通用する高度な外国語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献できる。(国内外での貢献性)									
科目名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
イペロアムリカ文学概論2	講義	2・3・4	2	ポルトガル語圏におけるイペロアムリカ文学の流れを理解する。実際の文学作品(日本語訳)を読み、その魅力に触れることに力点を置く。	ポルトガル語圏に属するイペロアムリカの主だった国の文学を通時的に捉え、邦訳された作品を中心に鑑賞し、文学の背景にあるそれぞれの国の文化的独自性について考察する。最終的にポルトガル語圏文学作品の独自視点の考察が可能になることを目指す。	○	○	◎			
イペロアムリカ社会文化概論1	講義	2・3・4	2	イペロアムリカ社会はどのような社会なのか、それを知ることがこの授業の目的である。そのために、まず、イペロアムリカ社会に関する基本的な情報を得る。その上で、現代のイペロアムリカ社会が抱える諸問題を理解する。	現代のイペロアムリカ社会は、どのような歴史の積み重ねの結果なのか、そして、それは、どのような特徴を持つ社会なのか、さらに、現代のイペロアムリカ社会はどのような社会問題を抱えているのか、そのような問題が生じる歴史的な背景と要因は何なのか、以上を、基礎的な知識を得て理解する。	○		◎			○
イペロアムリカ社会文化概論2	講義	2・3・4	2	この授業の目的は、イペロアムリカ文化に関する基本的な情報を得て、イペロアムリカ文化と切り離せない人種問題を理解することである。	授業は、講義形式で行われる。イペロアムリカでは、その文化の形成と人種の問題は深く関わっている。人種の問題とは、スペイン系・ポルトガル系、先住民、アフリカ系および混血者の関係である。この関係とは、社会階層的な関係と人種主義的な関係が複雑に絡み合っている関係であるばかりでなく、各国のナショナル・アイデンティティとも関わりを持つ。これらのことを、基本的な事柄に絞って、「イペロアムリカ文化入門」の授業として学習する。	○		◎			○
スペイン語圏史	講義	2・3・4	2	スペインからラテンアメリカに至る広大で多様なスペイン語圏の歴史を概観する。	各時代・地域の特徴的な歴史事象に焦点を当てながら、古代から現代に至るスペインならびにラテンアメリカの通史を俯瞰する。また、さまざまなトピックを随時取り上げてその歴史的背景をさぐり考察する。	◎	○	○			
ポルトガル語圏史	講義	2・3・4	2	ポルトガルがスペイン同様に大西洋圏に地球規模の展開をみせた「大航海時代」から、その最大の植民地となったブラジルの近代国家の形成と発展までの歴史的变化を解説する。ブラジルは先住民文化、アフリカ系民族の文化、ヨーロッパからの移民によって築かれた文化などが共存し、新たなブラジル独自の文化が生み出されてきた。この特異性を解説する。更には、第二次大戦後から現代にいたるまでの様々な政治・経済的発展の歴史を解説する。	ブラジルの先住民、日本へのポルトガル船の到来、奴隷制度、明治維新、移民社会、ヴァルガス革命、近代化への過程を順を追って解説する。	◎	○	○			
スペイン語圏入門	講義	1	2	スペイン語圏の地理と歴史を学ぶとともに、スペインおよびラテンアメリカの地域の社会的・経済的・文化的意味を確認する	スペイン語・ブラジルポルトガル語とはどのような専攻であり、どのような言語であるのかを解説する。英語や他のヨーロッパ言語との比較を通してラテン言語の特徴を理解し、その背景にある文化的・歴史の意味合いをも理解できるように指導する。	◎		○			○
ブラジルポルトガル語圏入門	講義	1	2	ブラジルポルトガル語圏の地理と歴史を学ぶとともに、ラテンアメリカおよびアメリカ地域において今日のブラジルはどのような社会的・経済的・文化的意味を持っているのかを確認する	スペイン語・ブラジルポルトガル語とはどのような専攻であり、どのような言語であるのかを解説する。英語や他のヨーロッパ言語との比較を通してラテン言語の特徴を理解し、その背景にある文化的・歴史の意味合いをも理解できるように指導する。	◎		○			○
イペロアムリカ演習1	演習	3	2	いわゆるゼミとよばれる少人数の演習科目で、	研究調査を通して、プレゼンテーションや議論		○				◎
イペロアムリカ演習2	演習	3	2	卒業論文の作成を最終目的とする。専攻語の語学、文学、歴史、社会文化の知識を深めながら、学生が主体となって関心のある分野を研究する。その成果を卒業論文で纏める。	研究調査を通して、プレゼンテーションや議論		○			◎	○
イペロアムリカ演習3	演習	4	2	卒業論文の作成を最終目的とする。専攻語の語学、文学、歴史、社会文化の知識を深めながら、学生が主体となって関心のある分野を研究する。その成果を卒業論文で纏める。	研究調査を通して、プレゼンテーションや議論		○			◎	○
イペロアムリカ演習4	演習	4	2	卒業論文の作成を最終目的とする。専攻語の語学、文学、歴史、社会文化の知識を深めながら、学生が主体となって関心のある分野を研究する。その成果を卒業論文で纏める。	研究調査を通して、プレゼンテーションや議論		○			◎	○
イペロアムリカ海外語学実習	実習	2・3	4	本専攻で学んだ外国語(スペイン語もしくはブラジルポルトガル語)の学力を活かし、本場でコミュニケーション力の向上を目指すだけでなく現地の社会や文化についても学ぶ。またホームステイを通じて本場の生活を体験する。	外国語の集中講義を受け、午後や週末は大学やホームステイ先が準備する行事・活動に参加することにより、イマージョン教育により最終的に生きたことば・文化を習得することを目指す。	○			○		◎
卒業課題研究		4	2	大学4年間で得た知識を活かし、卒業課題研究を行う。自ら研究テーマを選び、参考文献の分析やデータ収集等の研究の基本を身につける。更に、イペロアムリカ演習科目では各受講生の研究のテーマに沿った研究成果を随時発表する。成績評価はプレゼンテーション及び口頭試問を経て、その応答、及び研究データを見て総合的に評価する。	卒業課題研究を行うことによって、学生はデータ分析やデータ収集等、大学院への進学や様々な進路のための必要な知識及び技術を得る。		○			○	◎
卒業論文		4	4	「卒業論文」は大学院への進学、様々な進路へ進む(学生)全てが作成する。4年次の12月に提出し、成績評価は口頭試問を経て、その応答、及び論文の内容を見て総合的に評価する。	卒業論文を作成することによって、学生はデータ分析やデータ収集等、大学院への進学や様々な進路のための必要な知識及び技術を得る。		○			○	◎